



好きを育み、得意を伸ばす

園長 足立 祐子

秋のお彼岸が過ぎ、すこし過ごしやすい季節になりました。いよいよ秋の到来です。10月は運動会や遠足など、様々な行事が計画されています。各学年に応じてその取り組み方は異なりますが、大きな成長の節目になります。その日一日の様子だけでなく、取り組みの過程にも目を向けて応援いただければ、と思います。

「好きを育み、得意を伸ばす」は、次期学習指導要領やこれからの教育・自己成長の核心となるキーワードです。好きや得意なものは人それぞれです。運動会と関連させてみると、「運動会」という言葉に「うちの子は運動が好きではないから、苦手な行事」と思われるかもしれません。しかし、幼稚園で行う運動会は、さまざまな経験が集約されているのです。

たとえば「かけっこで一生懸命に走る」ということは「運動」ですし、一人一人の楽しみであり、挑戦でもあります。とても自発的な活動ですね。事前の数回の取り組みで運動会に向けての活動が終わるわけではなく、走ることに楽しみを感じながら、何度も自分で繰り返していくことが力になります。他学年の競技の応援はどうでしょう。知っている友達の応援をすることは運動とは違います。しかし、私たち大人でも好きな球団の応援や、推し活などとても心が動きますね。そのように、応援することも大きな意味のあることです。ダンスや競技などすべての種目も、今後の様々なことへの挑戦につながっていくでしょう。また、5歳児が行う活動には友達と相談する、協力する、役割をもって責任を果たす、といった要素も盛り込まれ、運動的な活動ばかりではない経験が出来るように計画されています。そのことを考えた時、幼稚園での経験は、様々な「好き」を見つけ、「得意」を伸ばすことに、おおいにつながっています。

★好きを育み、得意を伸ばすことについて大事なことが、いくつか挙げられています。

1. 「好き」の芽を摘まない環境づくり

- ・興味の対象を否定しない…「虫なんか持って帰ってこないで」「石ばかり集めてどうするの」と大人の基準で役に立つかどうかを判断せず、子どもが何に夢中になっているかをよく観察しましょう。
- ・没頭できる時間と空間の確保…大人の都合で時間を管理せず気が済むまでやり切れる環境を整えましょう。

2. 過度な「介入」を控える、適度なスタンス

- ・失敗のフォローにとどめる…すぐに助け船を出さず、自分で何とかしようとする姿を見守りましょう。
- ・自分で考える余白を残す…「どうすればよかったかな？」と声を掛け、子ども自身が気づき工夫するプロセスを大事にしましょう。

3. 「結果」ではなく「プロセス」を認める声掛け

- ・具体的な行動を言語化する…「この色を工夫したのね」「自分で考えて動くようにしたのね」などの声掛けを大事にしましょう。
- ・自己肯定感の醸成…「頑張っているよね」など、認められたことで、もっとやってみたいと思います。

これらはすべて、幼稚園教育で大切にしていることです。おうちの方もぜひ、お子さんの「好き」と「得意」を、園と一緒に見つめてまいりましょう。